

宇治市男女共同参画計画策定に向けた 市民ワークショップ報告書

令和7年7月

宇 治 市

I 目的

新しい「宇治市男女共同参画計画」を策定するにあたり、地域での生の意見を把握するため、市民ワークショップを開催し、市民の方々から幅広い意見をいただき、計画に反映することを目的に、市民ワークショップを開催しました。

II 実施場所

男女共同参画支援センター（ゆめりあ うじ）4階 会議室1

III 実施手法

グループワーク形式での意見交換を行いました。

IV 実施日程

令和7年7月5日（土） 14時～16時

V 実施テーマ

性別に関わらず誰もが暮らしやすい社会

テーマ①：固定的性別イメージの解消

テーマ②：困難な状況への支援（DV・介護・困難女性支援含む）

VI 参加者

女性 15名

男性 7名

合計 22名

参加者年齢構成（参加者アンケートによる）					
女性	20代	2名	男性	20代	3名
	30代	1名		30代	0名
	40代	1名		40代	1名
	50代	1名		50代	1名
	60代	4名		60代	1名
	70代	3名		70代	0名
	不明	3名		不明	1名

VII 意見のまとめ（概要）

テーマ①：固定的性別イメージの解消（概要）

（課題整理）

- ・ 「女だからこうすべき」「男だからこうあるべき」といった日常的な期待（足を閉じなさい、泣いてはいけない等）
- ・ 食事準備・洗濯などの家事分担が性別で固定される傾向
- ・ 育児・介護において女性が中心とされる風潮
- ・ 「男の子には青」「女の子にはピンク」といった色彩・服装の区分
- ・ 育休取得・育児参加は男性側にも拡大しているが社会的評価に差
- ・ 男女比率の偏り（社長、幹部、IT企業など）

（今後の改善・取組）

- ・ 歴史的背景を踏まえたジェンダー教育の充実
- ・ 学校・家庭・職場における役割の見直しと制度改革
- ・ 呼び方や言葉遣いの変更：「奥さん」「お嫁さん」ではなく「パートナー」「お連れ合い」
- ・ 制服や校則の自由化、メディア表現の更新による視覚的ジェンダーの緩和
- ・ 家事・育児・介護を性別で分けず、協力的な関係性を育む
- ・ グローバルな視野と世代を超えた対話を促進

テーマ②：困難な状況への支援（DV・介護・困難女性支援含む）（概要）

（課題整理）

- ・ DV加害者・被害者双方への認識不足、逃げ場の欠如
- ・ 介護休暇の取得困難、介護する側への精神・経済的負担
- ・ シングルマザー・ファザーやヤングケアラーの孤立
- ・ 相談窓口の時間制限、連絡がつかない、制度の複雑さ
- ・ 支援者の人員不足とストレス過多
- ・ マイノリティー層へのSOSが出しづらい風土

（今後の改善・取組）

- ・ SNSや対話の場など、身近な相談手段の拡充
- ・ 地域コミュニティによる「つなぐ支援」体制
- ・ DV窓口の明確化、情報の整理と発信
- ・ ケア労働者の待遇改善、気持ちへのフォロー
- ・ 学校でのジェンダー教育、教師教育の強化
- ・ 福祉施設や制度のさらなる整備と法的対応

VIII 意見のまとめ（個別詳細）

テーマ①：固定的性別イメージの解消

Aグループ

（現状・課題）

- ・ 女性でラッキーと思って生きてきた
- ・ 女性専用車両が1日通してある（JR）
- ・ 経済社会の中で働く条件も賃金にも男女差のある所が多い
- ・ うちのシェルターにいる女性をみると上手に人をもち上げるのが上手。これは問題。
- ・ 逆に、性別のせいで“自分らしくいられない”ってどういう時？
- ・ 女らしさ 母、奥さん
- ・ お宮参りで 男の子は「大」 女の子は「小」
- ・ 米をとぐのは女？ 米を持つのは男？
- ・ 今息子が2か月の育休をとっています 良いことだと思います
- ・ 「ご主人」「奥さん」と呼ばず「お連れ合い」と呼ぶ
- ・ DV被害女性をみていると、その子達もすでに男女差別が始まっている 一番気になる事である
- ・ （女なんだから）足をとじなさいと言われたことがある
- ・ 女らしさ・男らしさを作っている目にみえない社会が問題
- ・ 男らしさ 時代差 主人
- ・ 仕事で出会う“社長”はあつとう的に男性が多い
- ・ 男性が食器洗いをすると女性が洗い残しを指摘してしまう
- ・ 性差というより時代差？
- ・ 「ジェンダー問題」と言われてもピンと来ない 抽象的
- ・ 祖父母は、女性が男性と嫁ぐという考えが当たり前
- ・ 育休が男性でも取りやすくなった
- ・ 男性もメイクするようになってきた。
- ・ アイドルファン→男性 ジャニーズファン→女性 ではなくなってきた
- ・ ボランティアの会に参加される方はほとんど女性ですね
- ・ 妊娠・出産時に女性の負担が大きい→男性でカバーできることが認知されたほうがよい
- ・ IT企業で男性比率が高い（女性も多くなっている）
- ・ 女性でもラーメン、男性でもスイーツ好き

（今後の改善・取組）

- ・ 知る
- ・ もっと学校で男女差別のことを歴史から考えればよいのではないかと思う
- ・ 全員が意見をこわす内容をなくす取り組みを立てる
- ・ 捉え方の違い
- ・ すべての前戦に女性を入れて物事を考えたり、行動する
- ・ 肯定力を上げる活動事業をする

Bグループ

(現状・課題)

【らしさ】

- ・ 地図読むのは男の子が得意では、と言いがち
- ・ 一般的な考えにこだわって自分の好きなことが言えない
- ・ 理系女子かっこいいやん、と言いがち
- ・ 女の子なのに部屋がきたなすぎと言いがち
- ・ 女性のあぐら
- ・ 積極的・活発性のない男の子をついついハッパかけがち
- ・ 習い事で“男の子っぽいもの”をえらびがち
- ・ 男子は泣かない 男子は弱音を言いづらい
- ・ 男の子には委員長 女の子は副サブ？

【見た目】

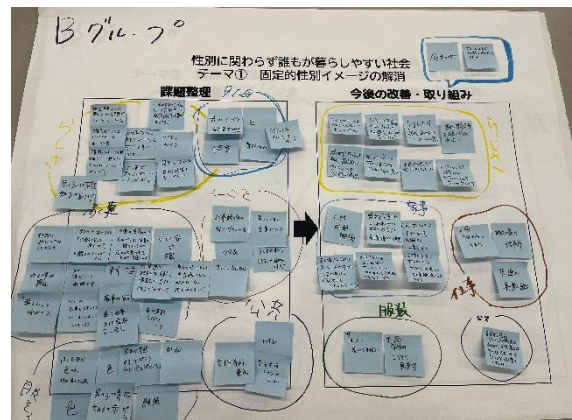
- ・ 男のメイク 韓国アイドルとか
- ・ 毛
- ・ 体型
- ・ 身だしなみ
- ・ 今日はやってないの？

【家事】

- ・ 料理は週に2日はしてもらう
- ・ 夕方とか出かけると「ご飯作って来たの？」と聞かれることがある
- ・ 夕食の支度について 夫はパソコン作業を続けているが私は作業の手を止めて支度に入る
- ・ 女は家で嫁
- ・ 力仕事は男性
- ・ 夫に洗たくは無理です
- ・ 料理
- ・ PC関連や複雑な業務、運転は男性（夫）と決めがち
- ・ 息子のパートナーをお嫁さんと呼びたくない なんと呼べばいい？
- ・ 「奥さん」と呼ばれる
- ・ パパが家事をしているとつい すごいね、と言ってしまう
- ・ 家事の分担
- ・ 男は仕事 女は家庭 古い考え
- ・ 車の運転 女性はヘタ

【しごと】

- ・ 仕事復帰のタイミングをえらべる
- ・ 育メンという言葉について
- ・ ママ友
- ・ 子供のねつ 迎えや休み
- ・ 男性の育休取得



【服そう】

- ・ (子ども服の) 色味 特に男の子の服
- ・ 色
- ・ 男性は青色 女性はピンクなど色を決めてる
- ・ 制服
- ・ 男の子は青い緑 女の子は赤、ピンク
- ・ 服装

【公共】

- ・ トイレ
- ・ 女性専用車両
- ・ 男女共用トイレが少ない

(今後の改善・取組)

【らしさ】

- ・ 好きなものは好きだと言えると思う
- ・ 男女性で分けるよい。個性でやりたいことでやる方がよい
- ・ 女子だけ男子だけでなく、年代も固定しない方が良いかな？
- ・ 男女で分ける方が、むずかしいことが多いと思う
- ・ 少子化なのに男女分けることは、おかしいと思う
- ・ 固定的な考え方を無くすようにしたい
- ・ 男女の得意分野をお互い認め合いたい
- ・ できないことを探すより、やりたいことを見つけたいです

【家事】

- ・ CM起用俳優
- ・ おかあさん世代の方に、おかあさん、と言わない。(子供いないかもしれないし)
- ・ 男女の役割にとらわれない呼び方をする 看護婦とか保母とか
- ・ メディアの広告等、表現が変わってきたがよりそれを継続 (性差イメージ)
- ・ <夫と協力して>男女の性差関係なく子育てする
- ・ <学校の先生と協力して>男女の性差なく教育環境をつくる

【仕事】

- ・ 育休制度の平等化
- ・ 職場の理解
- ・ 共通の美意識

【服装】

- ・ 自由に選べる制服を
- ・ 中・高等学校の校則を見直す

【公共】

- ・ 固定的性別イメージの考え方があるが、子供達には、そんなイメージを付けない教育をしたい

【その他】

- ・ 令和やで
- ・ グローバルな視野を持つようにしたい



Cグループ

(現状・課題)

【お金】

- ・ 男女の賃金格差が大きすぎる
- ・ 経営者の幹部は男性が多い 会社は男ばかり
- ・ 年金で生活できない

【育児】

- ・ 保育園に入れなかったとき育休をのばすのは女性
- ・ 育児・家事は女性がやりがち

【地域福祉】

- ・ 家族会には男性がいない
- ・ 授業参観はママさんが多い
- ・ 典型的な昭和の時代を生きたと思う

【概念・意識】

- ・ 男の子だから何色だ 女の子だから何色が好き
- ・ 男らしさ、女らしさのらしさとは何か、自分らしくという表現が良い
- ・ グーグルアンケートのフォームが男性→青 女性→赤
- ・ 女らしさ、色使い
- ・ 女らしさ、言葉づかい
- ・ 女の子なんだから行儀よくしなさいと言われた
- ・ 男がしてはいけないこと、女がしてはいけないこと 逆にマニュアルにして教えて下さい
- ・ 男らしさ、おしゃれ ロン毛が気になる
- ・ (女性が)たくさん話していると品がないといわれる
- ・ 男らしさなんでもあり←最低限のルールがあれば
- ・ 男はこうであるべき、という意識から解放された世界の自由と楽しさをもっと共有したい
- ・ 男性側が食事をしたときに代金を出してくれる
- ・ 男性が重たい荷物を持ってくれる

(今後の改善・取組)

- ・ 女性が思っている事をパートナーに伝えるべき
- ・ 孫から言われたことで… 男の子だけどピンクや赤が好きでもぜんぜんかまわない
- ・ 自分らしくより、自分を生きることが大事と思ってます。
- ・ 女らしさというよりもやはり、女性がしてくれた方が良いという行動はあると思う
- ・ 男性の育休が推進されている

- ・ 最近の男性はきちんと家事もゴミ出しもされているのをよくみかける
- ・ 男性の育児休業の更なる推進
- ・ 娘をみても今・風！だから、仕事も出来る！＜育児＞
- ・ 長時間労働の解有り 仕事第一という価値感を支える
- ・ ごはんや子どもの弁当は男が作り続けていたらそれが普通になる

テーマ②：困難な状況への支援（DV・介護・困難女性支援含む）

Aグループ

（現状・課題）

- ・ 目立ってしまう たたかれる
- ・ 言葉のDV増加
- ・ 相談してもわかってもらえず

（今後の改善・取組）

- ・ ネットで一緒に調べる
- ・ 目立たない
- ・ 長期の休みをとりやすいように（周りがいいやすくしてあげる）
- ・ 受ける側を多くする。
- ・ Welcome な態度
- ・ おしゃべりも大事
- ・ 一緒に立場で
- ・ ネット SNS はきだせる場
- ・ すぐ逃げ込める
- ・ 多様性



Bグループ

（現状・課題）

【介護】

- ・ 自分でかかえない 公共の力をかりる。
- ・ 通院たのむのもお金が必要になってくる
- ・ 育休はあるが介護はない（有るが少ない）
- ・ 介護休暇、育休よりとりにくいと思う
- ・ 家族のことは家族で解決する風ちようがある。
- ・ 介護するのは子供（娘 息子 嫁）と決めつけている
- ・ 「おむつ代が出ること」等、介護はみんなバラバラのタイミング
- ・ 夫の家族の介護の主が平等でない
- ・ 自分の事を言うことが恥と考えているのかな
- ・ 高齢化で年寄りが年寄りを介護
- ・ はずかしいという思い
- ・ 困っていることを社会に頼る風土が、ない
- ・ 介護に於いてヘルパー等を頼みたくても認定によってスムーズにうけれない
- ・ 老人ホームに入れない

【子】

- ・ 子供は、親が見るべきだ、という思い込みがある
- ・ とてもすてきなものを持っている子が学校の集団に入ると、困った子になってるらしい
- ・ 個性的な子どものお世話

【意識】

- ・ 自分が言葉の暴力をしている自覚がない！
- ・ 「幸せ」と見えることが美とされている
- ・ 人と比べる
- ・ 人より機械のつながり
- ・ 古い教育
- ・ 支援者の負担増 人手ぶそく
- ・ 1人支援で3人必要



【マイノリティー】

- ・ シングルファーザーのサポートの難しさ SOSの出しにくさ
- ・ 単身赴任で家族が離れて暮らさざるをえない
- ・ シングルマザーの経済的な困難さ
- ・ 食糧支援をしていたが米が手に入らなくなってしまった ストップしてしまった

【相談】

- ・ 明らかにDV案件であっても伝えることの難しさ
- ・ 相談しても別に解決しないというあきらめ
- ・ 声をあげることが困難（知られたくない）
- ・ たらいまわしにされる
- ・ 気づいていない
- ・ 困っている人は自分から手を上げると思っているから 待っているから
- ・ 17:00～の窓口
- ・ 電話が繋がらない
- ・ 避難所での性被害について

【その他】

- ・ ハラスメントの法律が整備されていない（パワハラ・セクハラのみ）

（今後の改善・取組）

【発信】

- ・ 課題に気づいた人（ワークショップ・きっかけ）声をかける。
- ・ 私ができることは〇〇です、とSNS等で発信しておく（相談してもらいやすく）
- ・ SNS
- ・ 情報弱者への支援が必要
- ・ 同じ悩みの方との話し合い SNSの活用

【介護】

- ・ 認知症の親へのケアは育児より大変ということの周知
- ・ 金銭的なサポートは安心（介護）
- ・ 介護休暇を平等に

【地域コミュニティ】

- ・ だれかと（自分が解決できなかつたら）つないであげたい
- ・ 地域のコミュニティ（相談しやすさ）
- ・ 男性の地域活動の参加。

【相談窓口】

- ・ 遠方にいる1人暮らしの親を見守るサポートのじゅうじつ
- ・ 公共の支援が必要 広報など
- ・ 相談ハードル高い 相談のしきいを低く
- ・ DV窓口の明確化 周知
- ・ 制度の複雑化をなるべくクリアにしてほしい
- ・ 総合の窓口 いったんの情報あつまるなど
- ・ 意識のアップデート
- ・ 相談先が「令和やで」の人
- ・ 給料等たいぐうを見直す
- ・ ケア労働者の給料が仕事に対して安すぎる
- ・ ケア労働者の・フォロー・気持ちの面も
- ・ 気づくための教育
- ・ 平均を求める教育から脱却を



Cグループ

（現状・課題）

【DV】

- ・ シェルターに入ると失うものが多すぎて使うことができないDV被害者
- ・ まずは逃げこめる安全な場所がある社会が必要
- ・ DV加害者についても考えてみる
- ・ 無意識に人が嫌がる言葉、ぼう力をふるってしまう
- ・ そもそもDVに気付いていない

【犯罪】

- ・ 先生（教育者）の立場で性犯罪に走るのか

【ヤングケアラー】

- ・ ヤングケアラーの問題も。娘が両親をみておられる
- ・ 仕事に行けない
- ・ 両親が亡った後、どう生きていくのか心配

【介護】

- ・ 介護は女性がやりがち→キャリアをあきらめる人も
- ・ 介護において老夫婦だけの生活で奥さまが介護してられる
- ・ 体力もいるし精神的に大変だけどご近所にいる知られたくない
- ・ 介護、金銭的問題を抱えておられる。
- ・ お金がないから預けられない

（今後の改善・取組）

- ・ 子どもや介護事情があっても働きやすい 職場、社会
- ・ 先生になる前に人としてじょうしきの事を学ぶ
- ・ ジェンダーなど学校での教育の大切さ
- ・ DVプロの力を借りる
- ・ 心のケアが必要です 友人や、カウンセラーなど
- ・ 男女共同参画センターでひたすら話をきくだけの場を作る
- ・ 健康寿命を延ばす取り組みを
- ・ 孤立せずに想いを語れる場。受けとめる社会が地域に必要
- ・ 何か力になれることがあればいつでも言っても言っても大丈夫、ありがとうと話したくない
- ・ 介護でお世話をされている方自身の精神を安定させてあげるべき
- ・ 介護に関する制度を企業側や政府が法律などを作って対応する
- ・ 介護、医療などの施設の充実を 福祉

IX まとめ

今回のワークショップでは、固定的性別イメージとして「男らしさ・女らしさ」について議題にあがりましたが、“あたりまえ”の認識に世代間でギャップがあることが明らかになりました。

固定的性別イメージによる役割分担や外見・言動への偏見が日常に存在する一方で、世代間での捉え方の違いが大きく、若年層からはそもそも「男らしさ・女らしさ」といった固定的性別イメージを意識したことがないとの意見が出るなど、若年層には男女共同参画の意識が浸透している意見も聞かれました。

困難な状況への支援に関しては、相談を必要としている人に相談窓口など支援に関する情報が伝わっておらず、適切な窓口につなげることができないことが、意識調査でも多く回答があった「相談しても無駄だと思ったから」と考えてしまう原因ではないかとの意見が出ました。

課題の解消に向けて、「人とのつながりが支えになる」という各グループ共通の意見があり、孤立を防ぐ場や周囲の理解の重要性が強調されたほか、相談窓口の周知には、SNSの積極的活用にも努めるべきとの意見が出ました。

また、介護については、これまでと同様に負担が女性に偏る現状が各グループから指摘され、制度・意識両面での見直しの必要性が再確認されました。